

だいこんの需給動向

調査情報部

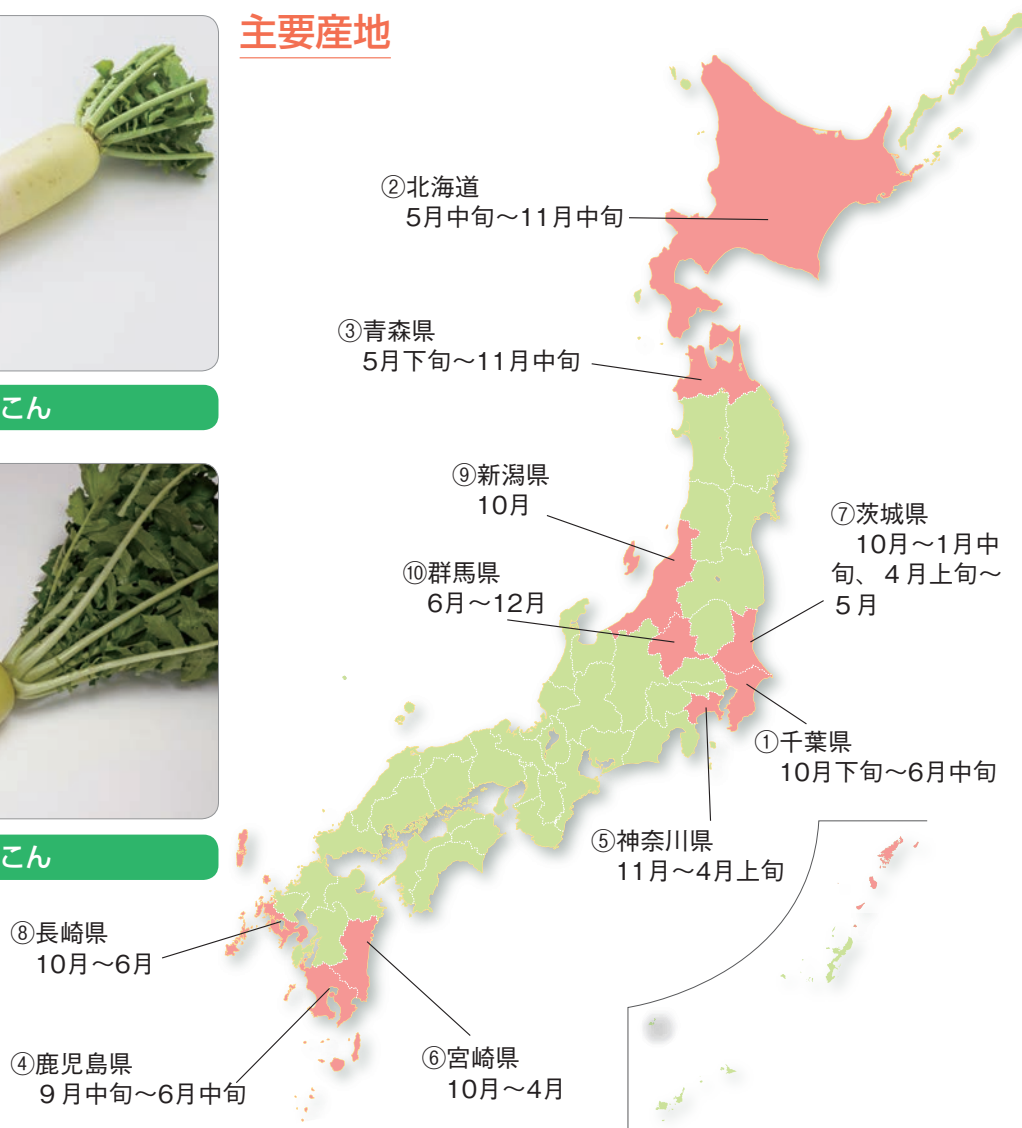


青首だいこん



源助だいこん

主要産地



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（令和2年産）」

注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

だいこんは、古代エジプトでは紀元前から栽培され、ピラミッド建設の労働報酬のひとつにもなっていたともいわれる。日本には中国から伝わったとされ、「古事記」にはすずしろ（清白）の名で記されている。

品種改良や栽培技術が進んだ江戸時代の書物には、品種数の最も多い野菜と記述されている。そのころ、保存食として漬物や

切り干しなどの加工も行われ、庶民の生活に欠かせない野菜となった。

現在流通しているものは「青首系」がほとんどだが、ずんぐりとした三浦だいこんや丸型の聖護院だいこん、太くて短い源助大根など、色も形もバラエティ豊かで地方色の強い品種も多くある。

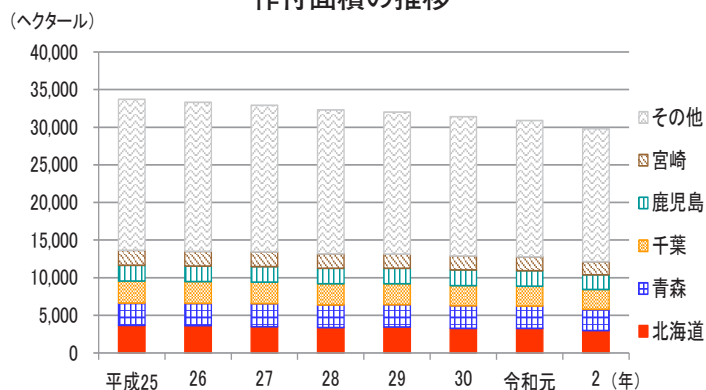
作付面積・出荷量・単収の推移

令和2年の作付面積は、2万9800ヘクタール（前年比96.4%）と、前年よりやや減少した。

上位5道県では、

- ・北海道 2970ヘクタール（同 91.4%）
 - ・青森県 2830ヘクタール（同 95.3%）
 - ・千葉県 2620ヘクタール（同 98.5%）
 - ・鹿児島県 1970ヘクタール（同 95.6%）
 - ・宮崎県 1750ヘクタール（同 96.2%）
- となっている。

作付面積の推移



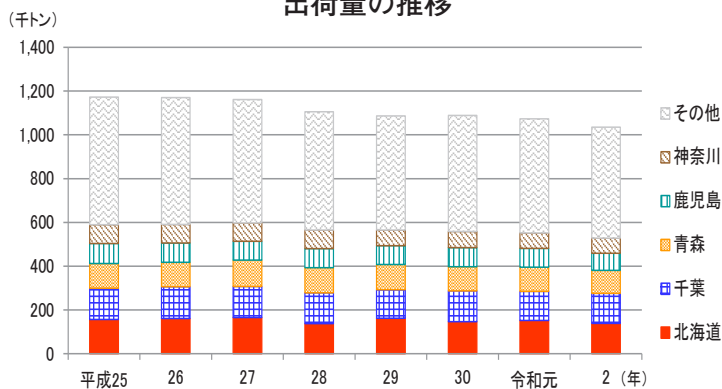
資料：農林水産省「令和2年産野菜生産出荷統計」

令和2年の出荷量は、103万5000トン（前年比96.5%）と、前年よりやや減少した。

上位5道県では、

- ・北海道 13万8300トン（同 90.7%）
 - ・千葉県 13万7700トン（同 103.8%）
 - ・青森県 10万5300トン（同 95.0%）
 - ・鹿児島県 7万8100トン（同 91.6%）
 - ・神奈川県 6万8600トン（同 97.2%）
- となっている。

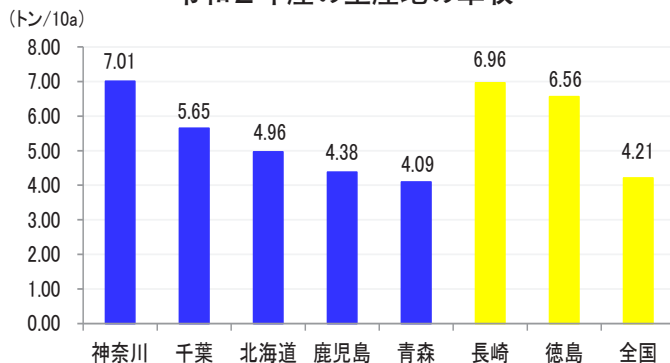
出荷量の推移



資料：農林水産省「令和2年産野菜生産出荷統計」

出荷量上位5道県について、10アール当たりの収量を見ると、神奈川県が最も多く、次いで千葉県の5.65トン、北海道の4.96トンと続いている。その他の県で多いのは、長崎県の6.96トン、徳島県の6.56トンであり、全国平均は4.21トンとなっている。

令和2年産の主産地の単収



資料：農林水産省「令和2年産野菜生産出荷統計」

注：黄色は、出荷量上位5道県以外で単収が多い2県および全国平均。

作付けされている主な品種等

だいこんは、栽培の歴史が古く、日本全国でそれぞれの土壌、気候に適応した作型に分化したこと、さらに用途も幅広いことから日本における品種数は世界的に見ても多いと言われている。主に“青首だいこん”と“白首

だいこん”の2つの品種群に大きく分かれるが、流通の主流は青首だいこんである。最近では辛みの強い品種や、赤、紫、黒、縞模様といった色とりどりの品種も消費者から注目を集めている。

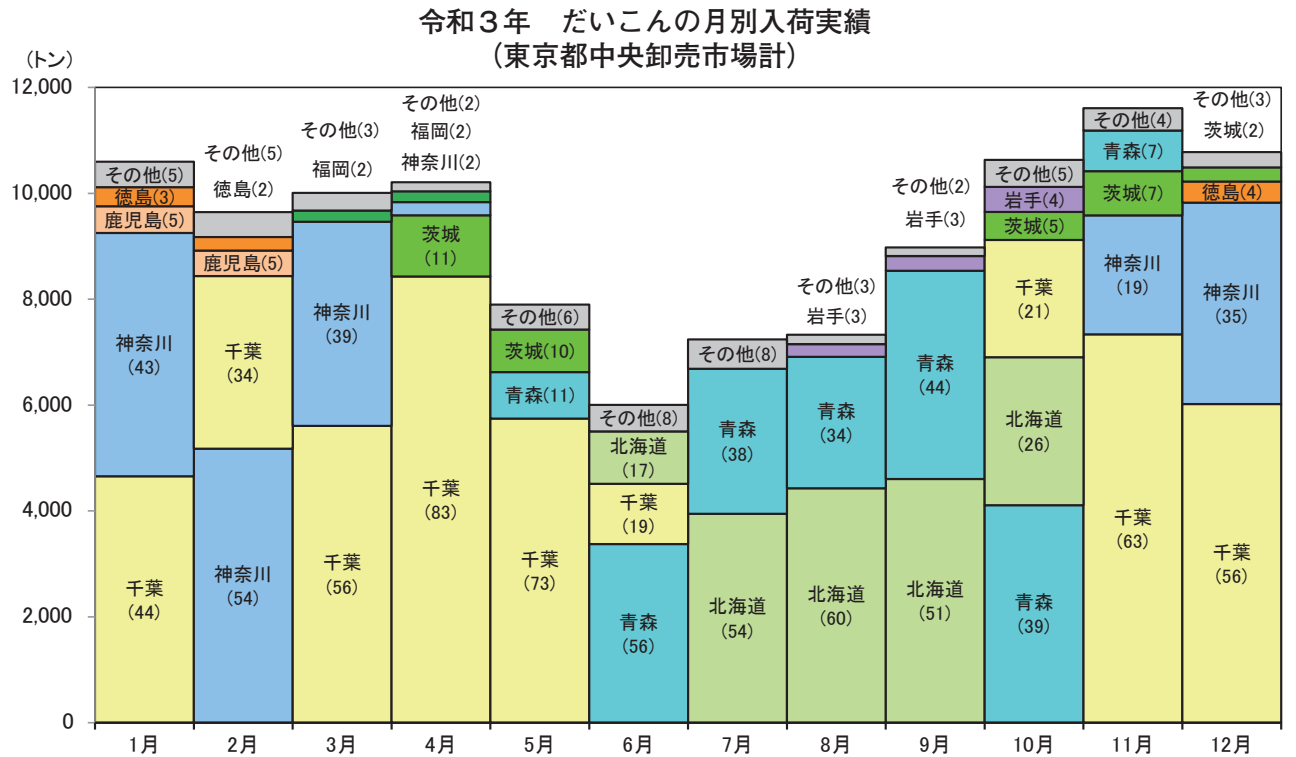
都道府県名	主 な 品 種
北 海 道	夏つかさ、貴宮、夏つかさ旬、晩々G、蒼春
青 森 県	つや風パワー、トップランナー、春輝
千 葉 県	福誉、冬自慢、春宴
鹿 児 島 県	役者奉行、冬侍、春の砦
宮 崎 県	T-734、漬誉、Y R日向理想、耐病総太り、耐病千切り

資料：関係者聞き取りにより農畜産業振興機構作成

東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（令和3年）を見ると、6月から10月までは北海道、青森県といった東北の産地からの入荷が見られるが、11月から翌5月にかけては近在の

千葉県、神奈川県、茨城県の入荷が大きな割合を占めるほか、徳島県や鹿児島県からの入荷も見られる。



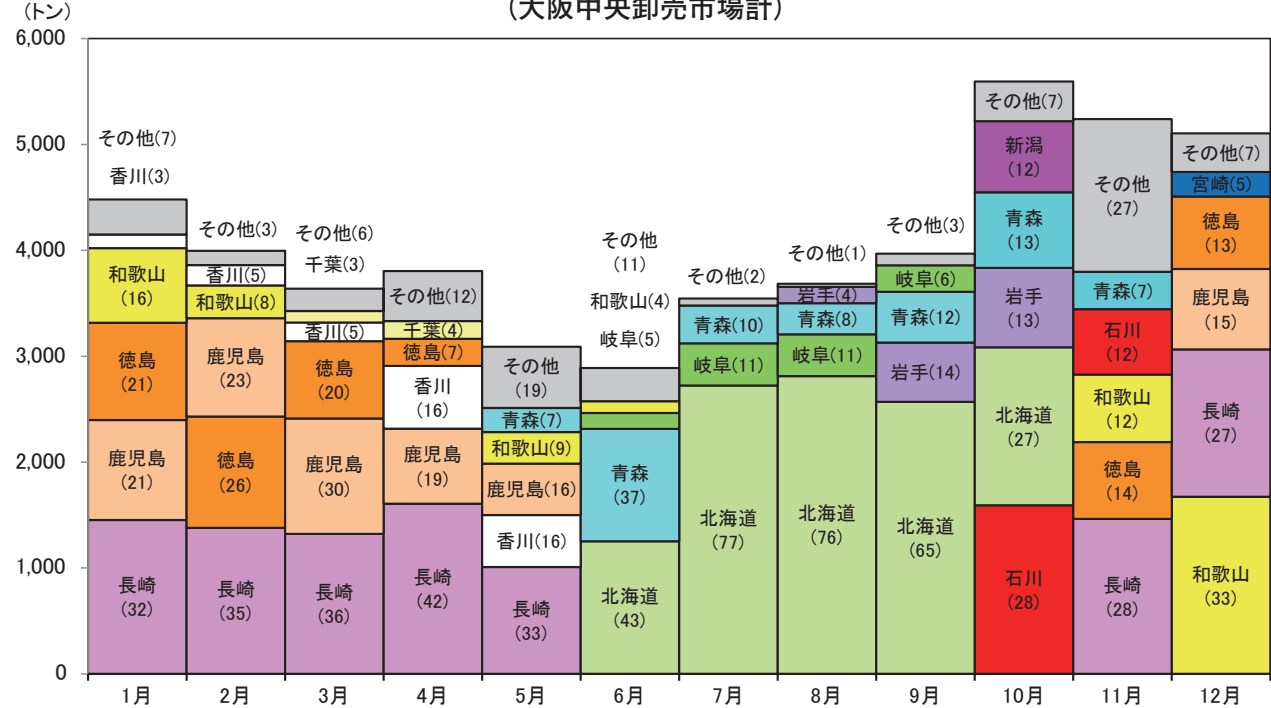
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：令和3年東京都中央卸売市場年報）

注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

大阪中央卸売市場の月別入荷実績（令和3年）を見ると、6月から10月は北海道産や東北、北陸からの入荷割合が高く、11月

から翌5月にかけては長崎県、徳島県、和歌山県、鹿児島県などからの入荷がみられる。

令和3年 だいこんの月別入荷実績
(大阪中央卸売市場計)



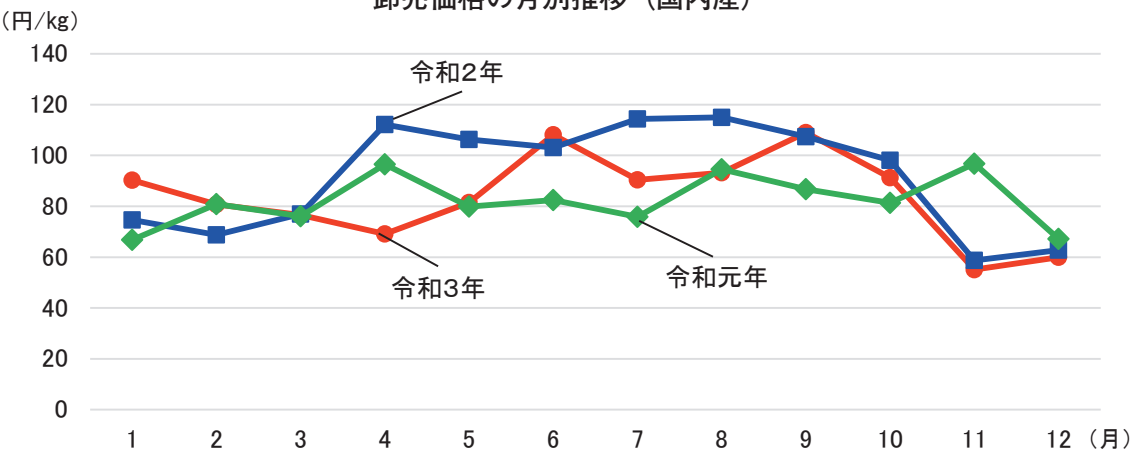
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：令和3年大阪市・大阪府中央卸売市場年報）
注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

東京都中央卸売市場における価格の推移

東京都中央卸売市場におけるだいこんの価格（令和3年）は、1キログラム当たり

55～109円（年平均82円）の幅で推移している。

卸売価格の月別推移（国内産）

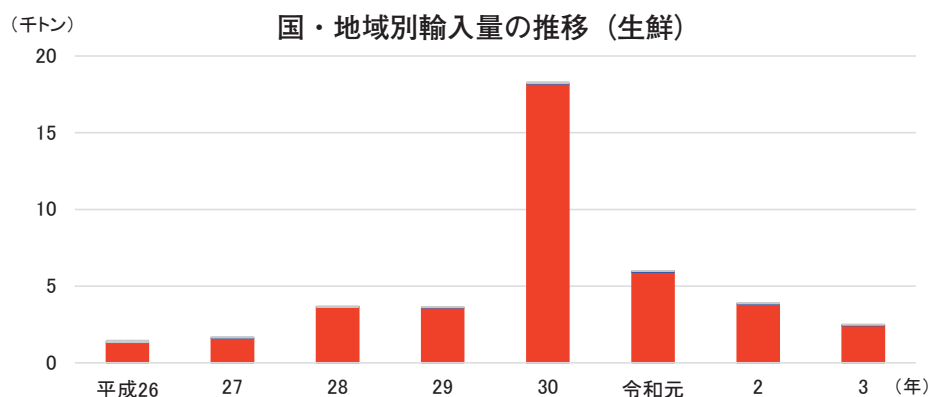


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

輸入量の動向

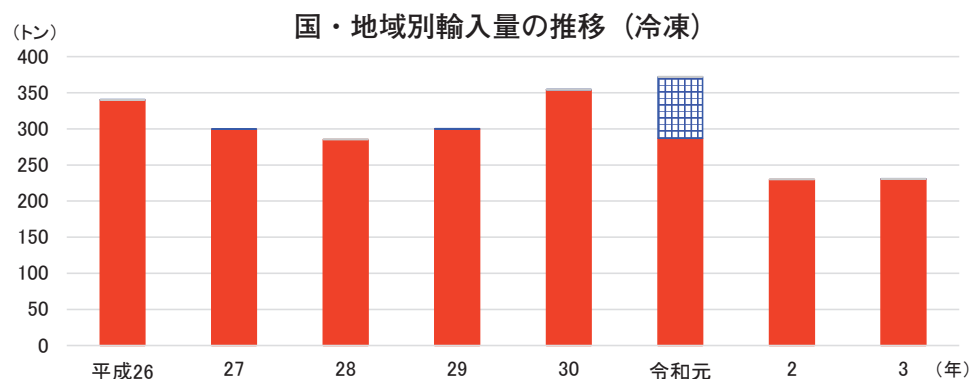
生鮮だいこんの輸入量は、国内の台風や秋以降の低温などの影響により、国産が不作となったため平成30年に急増したが、その後は減少し、直近の令和3年は2500トン程度となっている。中国からの輸入が大部分を占めている。冷凍だいこんは、中国か

ら主に業務用のだいこんおろし用として周年で輸入している。令和2年、3年の輸入量は、コロナ禍による業務用需要の減少により230トン程度となった。乾燥だいこんは、主に中国から切り干しだいこんの原料として、周年で輸入されている。



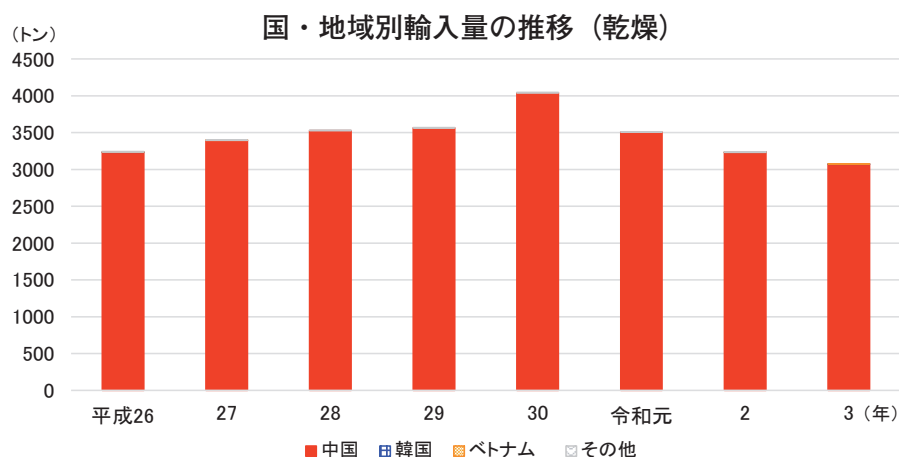
資料：農林水産省「植物防疫統計」

注：検査数量の数値である。



資料：農林水産省「植物防疫統計」

注：検査数量の数値である。



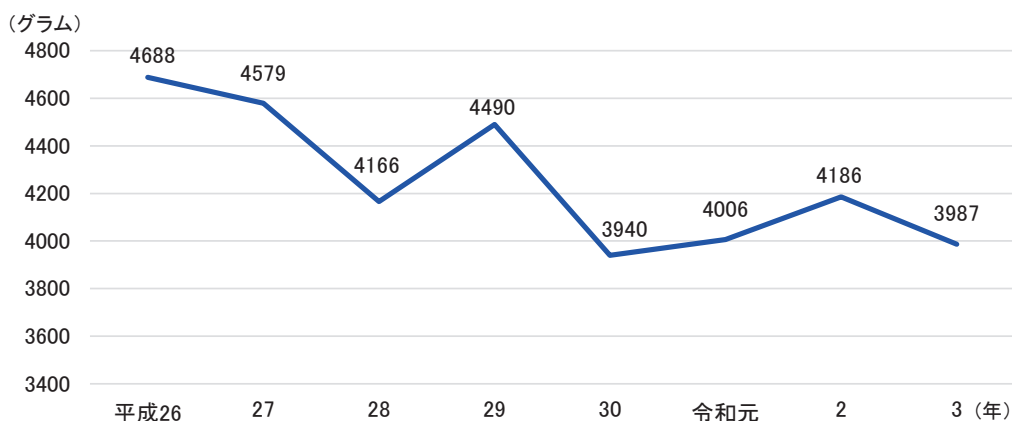
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

消費の動向

だいこんの年間購入量は、平成26年以降減少傾向にあったが、令和2年はコロナ禍による家庭内消費もあり、4186グラムと増加した。近年は、家庭で漬物を作らなくなり、はくさいなどと並んで消費量の減少が大きい

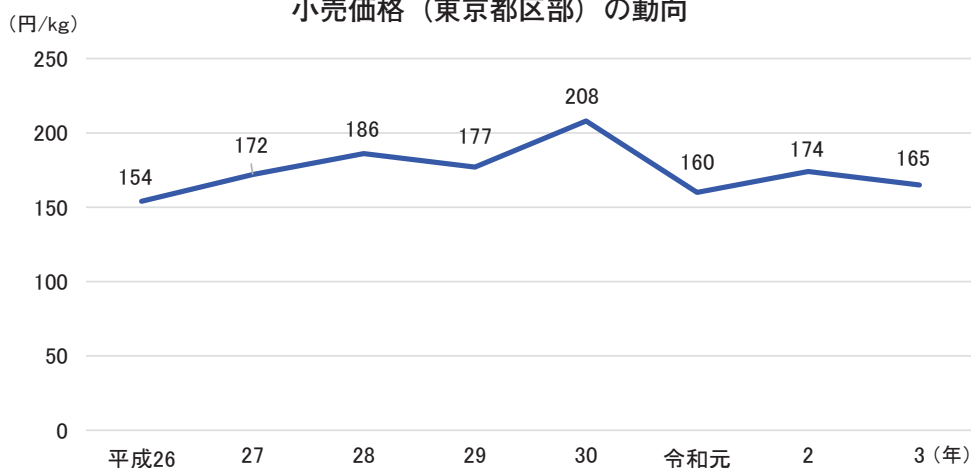
い野菜である。東京都区部の小売価格は1キログラム当たり170円前後で推移しており、価格が高くなると購入数量が減るような傾向が見られる。

1人当たりの年間購入量の推移



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「家計調査年報」）

小売価格（東京都区部）の動向



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「小売物価統計調査」）